

スライド1 / 357 文字



こんにちは、寒川町社会教育委員の倉本です。大野です。

これから私たち、図書館部会的事例発表をさせていただきます。

はじめに、子どもの読書活動は、考える力、感じる力、想像する力、表現する力などを身に付ける上で極めて重要であるとされています。

全ての子どもたちが楽しく自主的に読書に親しむことのできる環境を整備する必要があります。

それらを踏まえて、「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために～総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援～」をテーマに、図書館部会で平成30年度から令和3年度までの4年間で協議を行いました。

令和2年度、3年度は残念ながらコロナ禍でのイベントの中止・縮小などを受けて、後半は思うように活動できませんでした。

令和4年度から少しずつ活動が再開しておりますので、現在の状況も含めて発表させていただきます。

1. テーマの選定理由



子どもたちが本に親しむために、町や図書館、また地域として何ができるか、何をすべきかなどについて、図書館部会で協議を行いました。

1. テーマの選定理由

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために
何ができるか、何をすべきか

背景・・

- ・家庭教育：多様化する家庭環境に対して、地域全体での家庭教育の支援
- ・社会教育：地域社会の持続的発展のための学びの推進
- ・学校教育：資質・能力を育むための読書活動の推進



こ ども の 読 書 活 動 は、こ ども が 言 語 を 学 び、か ん せ い み が ひ ょ う げ ん た か そ う ぞ う り よ く ゆ た
 子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊か
 なものにし、じん せい ふ か い ち から み つ か
 なものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものです。
 し かし、き ん ね ん ふ き ゅ う ぶ ん や た よ う じ ょ う ほう
 しかし、近年はパソコンやスマートフォンなどの普及により、あらゆる分野の多様な情報
 ふ か ん た ん こ ど く し ょ ば な い ひ さ ほ ん ち ょ う
 に触れることが簡単になったことで、子どもの読書離れが言われて久しく、また本町も
 れ い が い
 その例外ではありません。

ほ ん だ い す さ む か わ こ そ だ つ ぎ て ん ぜ ん て い じ ょ う け ん
 そこで部会では、本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために次の3点を前提条件
 としました。

- か て い き ょ う い く こ う じ ょ う し い っ た い こ ど く し ょ かつ だ う す い し ん
 家庭教育の向上に資するため、一体となって子どもの読書活動を推進する
- が っ こ う ち い き れ ん け い
 学校や地域と連携する
- こ ど く し ょ た の し り ょ う かつ よ う し ら が く し ゅ う と く と お こ
 子どもたちが読書を楽しみ、資料を活用した調べ学習に取り組むなどを通して、子ど
 む た ち の ゆ た ま な お う え ん と し ょ か ん め ぎ
 もたちの豊かな学びを応援する図書館を目指す

け っ か は い け い
 その結果、背景として、

- か て い き ょ う い く た よ う か か て い か ん き ょ う た い ち い き ぜ ん た い か て い き ょ う い く し え ん
 ・家庭教育：多様化する家庭環境に対して、地域全体での家庭教育の支援
- し ゃ か い き ょ う い く ち い き し ゃ か い じ ぞ く て き は っ て ん ま な す い し ん
 ・社会教育：地域社会の持続的発展のための学びの推進
- が っ こ う き ょ う い く ど く し ょ かつ だ う す い し ん
 ・学校教育：読書活動の推進

と く か ん が
 があるとし、これらについて、どのような取り組みができるか 考えました。

スライド4/0文字

2.現状と課題・取り組み



©東京大学出版会

2.現状と課題・取り組み

2-1.子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくり
・家庭教育:多様化する家庭環境に対して、地域全体での
家庭教育の支援

- ・ 小学校低学年までは、父・母、祖父・祖母に連れられての来館が多い
- ・ 未就学児や大人へ図書館へ来館する機会を多く作る



かていきょういく こ としよかん あし はこ きかい ちゅうもく
はじめに、「家庭教育」については、子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくりに注目
しました。

ほん だいす さむかわ こ そだ さいしょ いっぱ おや はな かた えほん
本が大好きな寒川の子どもたちを育てる最初の一步は、親が話してくれる語りや絵本
おも
だと思っています。

ようしょうき おやこ ほん した かていきょういく じゅうじつ せいちょう どくしよしゅうかん
幼少期から親子で本に親しむことで、家庭教育は充実し、成長してからも読書習慣
としよかん あし はこ つな ほん みりよく つた かつどう じゅうよう
や図書館に足を運ぶことに繋がります。そのために、本の魅力を伝える活動は、重要です。

しょうがっこうていがくねん りょうしん そふぼ つ らいかん おお おとな
小学校低学年までは、両親、祖父母に連れられての来館が多いことから、大人が
らいかん くふう ひつよう わ つ がわ く づく
来館しやすい工夫も必要だと分かりました。つまり、連れてくる側の、来るきっかけ作りが
ほ
欲しくなりました。

たようか かていかんきょう みしゅうがくじ おとな としよかん らいかん きかい おお
[多様化する家庭環境にあわせて、未就学児や大人への図書館に来館する機会を多く
つく
作ること]

としよかん きょうみ も あし はこ まいしゅうどようび かい しゅうかん
図書館に興味を持って足を運んでもらうため、毎週土曜日のおはなし会や、2週間ご
もう えほん きかくてんじ せっきょくてき と い こうかてき
とにテーマを設けた絵本の企画展示などイベントを積極的に取り入れることは効果的だ
かんが
と 考えます。

としよかん らいかん ま こそだ しえん で お
また、図書館で来館してくれることを待つだけでなく、子育て支援センターへ出向くなど、
としよかん そと ほん みりよく つた かつどう じゅうよう かだい
図書館の外で本の魅力を伝える活動も重要であり課題です。

2.現状と課題・取り組み

2-2. 読書推進のための図書館のイベント
社会教育: 地域社会の持続的発展のための
学びの推進

- ◆ 図書館まつり
- ◆ わくわく読書マラソン



「社会教育」では、地域社会の持続的発展のための学びを推進させることが重要であり、図書館では定期的に子どもを対象とした読書推進のためのイベントを行っています。

[子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくり]とリンクするため、イベントに取り組むにあたって、図書館部会では次のような意見が出ました。

- ターゲットを明確にする: イベントの対象者は、乳幼児、小、中、高校生など
- イベントの申し込み日に配慮する: 子ども対象のイベントの申込日は土日にするなどを考慮しました。平日の受付開始では、働く保護者が対応できないとの配慮です。

図書館の子ども対象のイベントとして、「図書館まつり」と「わくわく読書マラソン」の事例を2つ紹介します。

スライド7/277文字



としょかん へいせい ねんど はじ かいさい としょくなんない さまざま てんじ
図書館まつりは平成30年度に初めて開催し、図書館内で様々な展示やものづくり
たいけん たの
体験などを楽しむことができるイベントです。

おも ないよう
主な内容としては、

- おんがく
・音楽コンサート
- たなとしょかん
・ひと棚図書館
- かそうしゃしんてん
・ハロウィン仮装写真展
- どくしょつうちょう
・オリジナル読書通帳づくりワークショップ
- たいかい
・ビンゴ大会
- へきが
・おりがみ壁画
- あおぞら かい
・青空おはなし会

れいわ ねんど ねんど しんがた かんせんしょうたいさく ちゅうし れいわ
令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止しましたが、令和4
ねんど にちようび ねん かいさい つうじょう どにちらいかんしゃ やく ばい
年度は10月30日(日曜日)に3年ぶりに開催し、通常の土日来館者の約2倍となる
らいかんしゃ
2387人の来館者がありました。

としょかん せいこう しゅうきやく こんご としょかんりよう
図書館まつりはイベントとして成功しましたが、この集客が今後の図書館利用にどう
むす つ ちゅうもく
結び付くか、注目しているところです。



ふため、^{どくしょ}わくわく読書マラソンです。^{なつやすこ}夏休みの子どもの読書を^{どくしょ}支える^{ささ}活動です。^{みつ}ねらいは三つ。

[^よ読む^{たの}楽しみ] ^{ほん}本に^ふ触れる^{たいけん}体験や^{どくしょ}読書の^{たの}楽しみを^{かん}感じてほしい

[^{しゅうかんか}習慣化] ^{なつやす}夏休み中^{じゅうつづ}続けることで、^{どくしょ}読書の^{しゅうかんか}習慣化の^{ていちゃく}定着

[^{きょうゆう}共有] ^こ子ども^{どうし}同士の^{めせん}目線による、^{ほん}おすすめ本の^{はっしん}発信・^{きょうゆう}共有

^{どくしょ}わくわく読書マラソンは^{どくしょしゅうかん}読書習慣の^{ていちゃく}定着につながる^{こうひょう}好評な^{きかく}企画であることから、^{ぜんねんれい}全年齢を対象にしてはどうかという^{いけん}意見も^で出ました。

また、^{としょかん}図書館の^{にんち}認知や^{りよう}利用の^{そくしん}促進について、^{げんざい}現在の^{とりくみ}取組で^た足りているかに^{ちゅうし}注視していくところ^{です}です。

2.現状と課題・取り組み

2-3.読み聞かせ活動

- ・家庭教育: 多様化する家庭環境に対して、地域全体での家庭教育の支援
 - ◆ 行政との連携(0歳児ブックスタート)
- ・社会教育: 地域社会の持続的発展のための学びの推進
 - ◆ 公民館との連携(おはなし会)
- ・学校教育: 読書活動の推進
 - ◆ 学校との連携(小学校での読み聞かせ)

つぎ よ き かつどう
次に、「読み聞かせ活動」について、です。

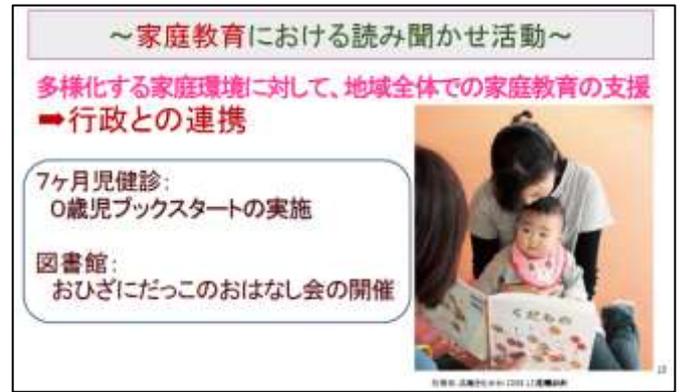
こ ほん した きかい
子どもたちが本に親しむ機会として、

かていきょういく ぜろさいじ
・家庭教育では、0歳児ブックスタート、

しゃかいきょういく こ かい
・社会教育では、子どものおはなし会、

がっこうきょういく しょうがっこう よ き おこな
・そして学校教育では、小学校での読み聞かせが行われています。

よ き かつどう がっこう かてい ちいき ぎょうせい れんけい おこな はいけい
読み聞かせ活動は、学校、家庭、地域、行政が連携して行われており、背景にある
たようか かていかんきょう たい ちいきぜんたい かていきょういく しえん ちいきしゃかい
「多様化する家庭環境に対しての地域全体での家庭教育の支援」、「地域社会の
じぞくてきはってん まな すいしん どくしょかつどう すいしん とりくみ しょうかい
持続的発展のための学びの推進」、「読書活動の推進」の取組について紹介します。



まず、家庭教育における「読み聞かせ」は大変重要で、それらを支援する取組として、0歳児ブックスタートや図書館のおはなし会などがあります。親もブックスタートで絵本に
 出会うことができますし、毎月のおはなし会などを通して本に触れる習慣に繋がっていき
 ます。

ブックスタートとは、絵本を介して赤ちゃんの時から本に接してもらい、子どもの言語
 能力と豊かな心を育てよう、という運動です。1992年にイギリスで生まれ、日本でも
 2001年（平成13年）4月から本格導入しています。2018年（平成30年）の調査で
 は、実施自治体は1036市区町村にのぼります。

寒川町では2007年（平成19年）12月から開始し、7ヶ月児健診の時に実施してい
 ます。地域に生まれた赤ちゃんと保護者を対象に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」
 をセットでプレゼントする活動は、子育て支援課と連携することによる新しい図書館
 利用者の開拓に繋げることができました。

図書館では、幼児を持つ親子向けに、毎月「おひざにだっこのおはなし会」を行って
 おります。

子どもの読書活動については、幼児期からの読書習慣の定着が課題であり、読書
 環境の整備と機会の充実を図る必要があります。

～社会教育における読み聞かせ活動～

地域社会の持続的発展のための学びの推進
→公民館と図書館の連携

各公民館に…
・図書館分室を併設
・子ども向けおはなし会の開催

図書館
・読み聞かせボランティアの育成
・読み聞かせノウハウの公開



©寒川町社会教育課

つづ しゃかいきょうい く よ き かつどう さむかわまち そうごうとしよかん
続いて、社会教育における「読み聞かせ活動」ですが、寒川町では、総合図書館だけ
こ うみんかんじぎょう ていきてき こ かい かいさい
でなく、公民館事業でも定期的に子どものおはなし会を開催しています。

ほくぶこうみんかん なんぶこうみんかん としよかんぶんしつ へいせつ そうごうとしよかん とお
また、北部公民館、南部公民館に図書館分室を併設しており、総合図書館までは遠い
ほくぶ なんぶ ちく す こ みちか としよかん じゆぎょう まな
北部と南部地区に住む子どもたちには身近な図書館となっています。授業で学んだこと
ば しら りてん
をその場で調べられる利点もあります。

しゃかいきょうい く かい いくせい ぜろさいじ ほん した
社会教育における課題としては、ボランティアの育成があります。0歳児に本を親しませ
こ うみんかん がっこう よ き かつどう れんけい としよかん ちゅうしん
るブックスタートや、公民館や学校での読み聞かせ活動と連携しながら、図書館が中心
よ き いくせい そくしん とりくみ ひつよう
となり、読み聞かせボランティアの育成を促進する取組が必要です。

こ うみんかん かい ちょうさ そうごうとしよかん くら ほくぶこうみんかん
なお、公民館でのおはなし会について調査すると、総合図書館と比べて北部公民館、
なんぶこうみんかん さんかしゃすう すく そうごうとしよかん せつび ぞうしよすう ちゅうしゃじょう おお
南部公民館の参加者数が少ないです。総合図書館は設備や蔵書数、駐車場が多い
りてん
利点もありますが、それだけでなく、伝えられる図書館のノウハウが大きく影響していると
おも
思われます。

かくこうみんかん こうかい よ き こうりゆう はか
これらを各公民館にも公開する、また、それぞれの読み聞かせボランティアの交流を図
ゆうこう かんが
ることも有効だと考えます。

しょうがっこう よ き せ かつどう おこな
小学校では、読み聞かせ活動が行われ
ています。そして、ボランティアが学校の読み
聞かせ活動に参加しています。



ちゅうがっこう せいと せんせい しずか ほん よ あさ どくしょ ていちゃく
中学校では、生徒と先生が静かに本を読む「朝の読書」が定着しています。

がっこう よ き かつどう おお ほん であ こ じしゆてき としょかん
学校での読み聞かせ活動から、多くの本と出会い、子どもたちが自主的に図書館に
行くことへ繋げてほしいと 考 えています。今は「調べ学習 = タブレットで調べる」との
認識になっている子が多いです。

じしよ しら ほか ことば おぼ ほん しら よ たいけん
辞書で調べると他の言葉も覚えられるように、本で調べることの良さを体験させていく
必要性が大切だと伝えられるとよいかもしれません。

そうごうとしょかん しょうがっこう れんけいじぎょう なつやす どくしょ
総合図書館では小学校との連携事業として、夏休みの「わくわく読書マラソン」や
展示企画で、各学年の国語の教科書で取り上げられている「教科書に出てくるお話し」
のテーマ展示を行い、図書館分室へも巡回展示をしました。

かだい がっこうとしょかん かつせいか がっこうとしょかん そうごうとしょかん ぶんしつ
課題として、学校図書館の活性化のため、学校図書館を総合図書館の分室にすると
いった発想の転換も必要、という意見もありました。

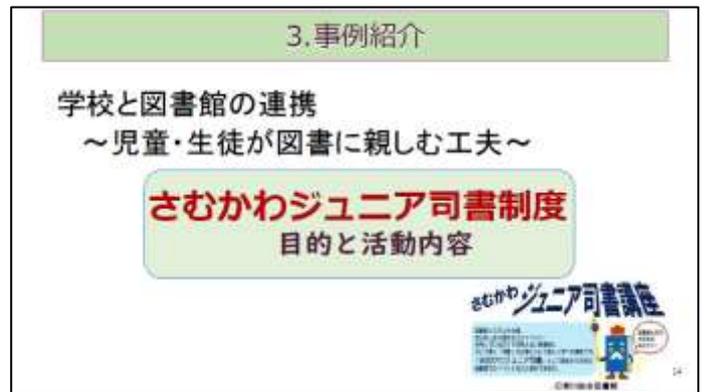
がっこう ししよきょうゆ がっこうとしょかんぎょうむ たんどう どくしょしどういん としよいいん れんけい
学校では司書教諭が、学校図書館業務を担当する読書指導員や図書委員と連携をと
って、児童生徒が図書に親しむ工夫をしています。

じゅうじつ きょうか がっこう としょかん は やくわり
そのようなところを充実、強化していければ、学校だけではなく、図書館の果たす 役
割も非常に大きくなるのではないかと思います。

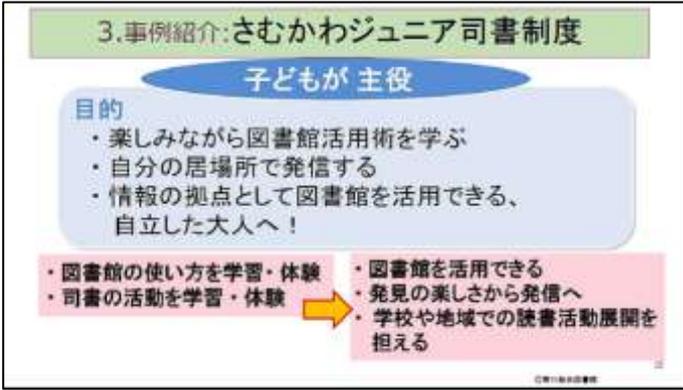
がっこう よ き かつどう ひとびと こうりゆう そうだん たいせい
また、学校で読み聞かせ活動をしているボランティアの人々の交流や相談できる体制
を総合図書館が担えると、より良いと 考 えます。



ここからは、^{せつめい}ただいま説明してきました^{げんじょう}現状と^{かだい}課題、^{とりくみ}取組から、
[^{がっこう}学校と^{としょかん}図書館の^{れんけい}連携]^{じれい}について^{しょうかい}事例をもって紹介させていただきます。



じどう せいと としよ した じれい じしよせいど しょうかい
児童・生徒が図書に親しむ事例として、「さむかわジュニア司書制度」の紹介をいた
します。



さむかわジュニア司書制度は、平成28年7月に寒川総合図書館が県内で初めて実施しました。小学5年・6年生を対象にした養成講座を行い、この時は10名が認定されました。

これ以降は平成30年度、令和2年度、4年度、5年度に実施しています。令和5年度から対象を小学校4年生から中学2年生まで拡大しました。

さむかわジュニア司書制度の目的は、

●子どもが図書館の仕事に触れながら、司書の仕事や図書館の仕組みを理解し、図書館の効率的利用方法や本を人に紹介する。

●スキルを身につけることによって、人と本を結びつける読書推進のリーダー役として地域で活躍できるよう育成する、などです。

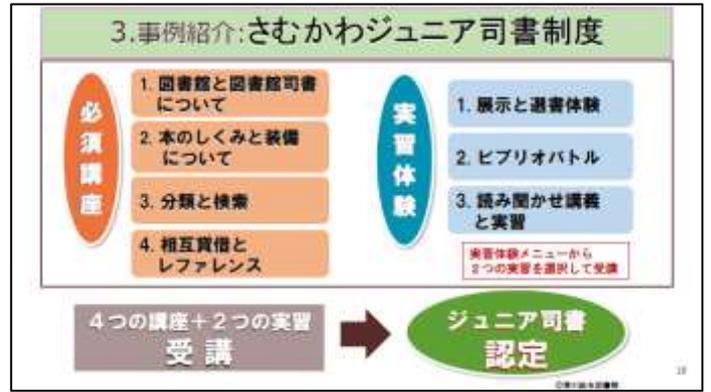
ジュニア司書制度では、図書館を利用しているだけでは見えない部分や、そこで働く司書の仕事についても楽しく学んでもらいます。

--背景--

*アンドリュー・デュアーさんによる「子ども司書制度」では、本を読むきっかけで最も影響を受けるのは親や周囲の大人よりも、自分と同じ年齢の子供たち(友達だった)と報告されています。

10代の子どもにとって、友だちとの関係は大変重要であり、小学生の場合、それは先生と司書が作るきっかけの2倍以上。中高生では、その差は6~7倍とされます。子供同士の影響力は無視できないということが明らかであることから、ジュニア司書制度は、子供同士の力を活かして読書への関心を高めるために有効だと言えます。

*アンドリュー・デュアー：東海学院大学教授：子ども司書推進プロジェクト代表



ジュニア^{ししょ}司書^{にんてい}として認定されるためには、4つの^{こうざ}講座^うを受け、2つの^{じっしゅう}実習^{たいけん}を体験します。
講座^{こうざ}と実習^{じっしゅう}が終了^{しゅうりょう}したら、ジュニア^{ししょ}司書^{にんてい}認定です。



じゅこう ようす れいわ5ねんど こうざないよう こうざ かい じっしゅう かい じっし
こちらは、受講の様子です。令和5年度の講座内容は講座4回、実習3回を実施しまし
た。

こうざ だい かい としょかん としょかんししょ
講座の第1回は「図書館と図書館司書について」、
だい かい ほん そうび
第2回「本のしくみと装備について」、
だい かい ぶんるい けんさく
第3回「分類と検索」、
だい かい そうごたいしゃく
第4回「レファレンス・相互貸借」、
じっしゅう てんじ せんしよたいけん よ き
実習は、「展示、ブックキャラバンでの選書体験」、「ミニビブリオバトル」「読み聞かせ」
まな
などを学びました。

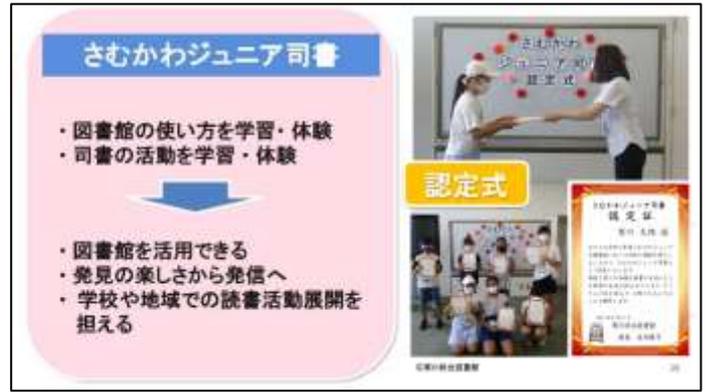
--用語解説--

アイスブレイキング：講座前に行う簡単なゲームや本題に入る前に行う雑談など

ミニビブリオバトル：読んで面白いと思った本を3分間で紹介する(公式では5分間)

----[補足] ジュニア司書制度-----

小学校高学年から中学生までの児童生徒を対象に、これまで平成28年度、30年度、令和2年度に実施しました。ジュニア司書認定者による活動は概ね毎月実施していますが、学年が上がることにより、活動卒業となるため、現在活動できる認定者が少なくなっています。



にんていご ししょ きたい じはつてき
認定後のさむかわジュニア司書に期待することですが、自発的に

- としょかん かつよう
●図書館を活用できる
 - はっけん たの はっしん
●発見の楽しさから発信へ
 - がっこう ちいき どくしょかつどうてんかい にな
●学校や地域での読書活動展開を担える
- など、となります。

認定後の活動

- 1.おはなし会
- 2.クリスマス展示コーナー
- 3.新春福袋
- 4.こども映画会
- 5.「ひと欄図書館」展示

ジュニア司書の成長にあわせて活動

→

- ・選書、展示設置、読み聞かせ練習
- ・イベントの運営補助

認定後のジュニア司書は、定期的な活動としておすすめ本の展示や、イベントの運営補助などに参加しています。

活動事例としては、

- おはなし会での読み聞かせ練習と当日の読み聞かせ
- 色々なテーマで本を選定し、中身が見えないように福袋として貸し出す新春福袋の袋作りと選書
- こども映画会の受付補助、などがあります。

また、

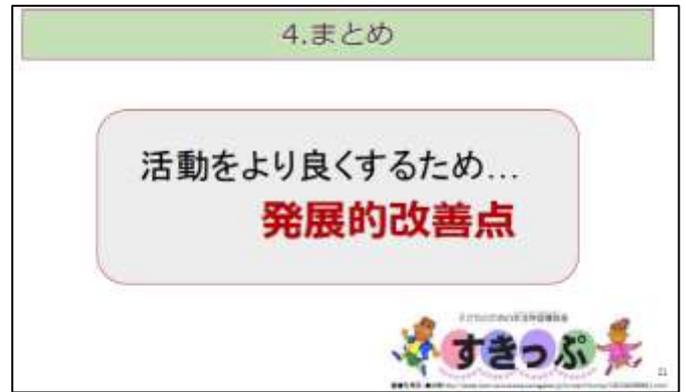
- ジュニア司書で YA(ヤングアダルト)展示の本の選定と紹介ポップづくりを実施したら、常に貸出状態となる本が多く、効果が大きかった。
 - 選書会に参加してもらい、購入資料の絞り込みに携わって選書された本は貸出状況も良い
- などの展示や選書においてもジュニア司書効果がありました。

4.まとめ



©東京大学出版部

20



かつどう ふ、 かせ
活動を振り返って…

ほん だいす さむかわ こ そだ なに なに
本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために、何ができるか、何をすべきか、まとめ
か かつどう よ こんご じゅうじつ はってんてきかいぜんてん
に変えて、この活動をより良くするための今後の充実すべき「発展的改善点」についてお
つた
伝えします。

4.まとめ:今後の発展的改善点

活動を振り返って...

児童・生徒が図書により親しむために

4つの **発展的改善点** が見つかりました

- 1) 図書館ボランティアの育成
- 2) 学校図書館との連携
- 3) 地域の多様な主体との連携・協働
- 4) 図書館講座の開催

総合的に活動を振り返ってみると、4つの発展的改善点が見つかりました。

1) 図書館ボランティアの育成

町民が身につけた知識や経験が生かせるよう、ボランティア活動の充実です。地域の読書活動推進の担い手として、子どもの読書活動や図書館サービスを支援するボランティアの育成を行います。

2) 学校図書館との連携

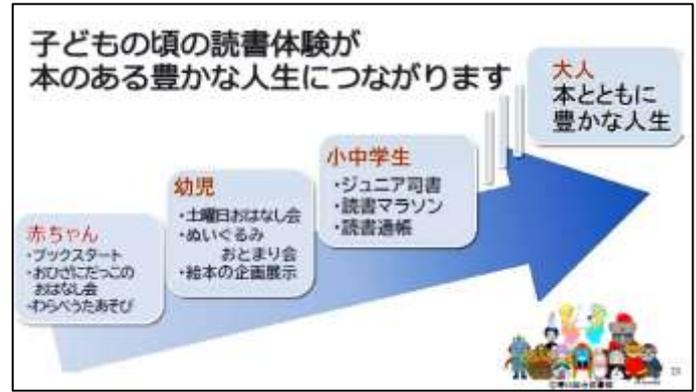
子どもの読書活動を支援するため、学校と連携した取組の充実です。学校と総合図書館が連携し、読書の重要性に関する普及啓発を通じ、読書を楽しむ機会や学ぶ環境を充実させます。

3) 地域の多様な主体との連携・協働

図書館が学習活動や情報発信の機能を高め、地域、学校、企業など多様な主体との連携を目指します。多様な主体との連携によって、雑誌スポンサー制度等の地域に根ざした図書館活動の充実を図ります。

4) 図書館講座の開催

図書館は町民の学びを支える施設です。図書館の利用促進を図るため、読書会、研究会、講演会、鑑賞会、映写会、講座等の実施を充実します。



子どもたちの読書活動推進のためには、幼い頃から本に親しむ機会や環境が必要です。

読書で言葉を学び、想像力を育み、様々な知識を得ることは、子どもの成長や発達に重要な役割を果たし、その体験から大人になってからも学び続けることが可能であることを実感できるようになります。

私たちの思いは、「子どもの頃の読書体験が本のある豊かな人生につながる」ということです。その一助となれる活動ができるのであれば、幸せです。

また、総合図書館は学びを支える地域の情報拠点として、学習活動や情報発信の機能を高め、家庭・地域社会・学校などとの連携とともに、資料の充実と利用環境の整備、そしてボランティア活動の充実などを、より図る必要があります。



協議^{きょうぎ}テーマである「本^{ほん}が大好きな^{だいす}寒川^{さむかわ}の子どもたちを育てるために~^こ総合図書館^{そうごうとしょかん}を拠点^{きょてん}とした子ども^この読書^{どくしょ}活動^{かつどう}支援^{しえん}~」では、取り組むべき前提^{ぜんてい}条件^{じょうけん}として、

●家庭教育^{かていきょういく}の向上^{こうじょう}に資^しするために、一体^{いったい}となって子ども^この読書活動^{どくしょかつどう}の推進^{すいしん}すること、

●学校^{がっこう}や地域^{ちいき}と連携^{れんけい}すること

●子ども^この豊かな学び^{ゆた}を応援^{まな}する図書館^{おうえん}を目指すこと、

の3点^{てん}をあげておりましたが、家庭教育^{かていきょういく}、社会教育^{しゃかいきょういく}、学校教育^{がっこうきょういく}がそれぞれ連携^{れんけい}した取組^{とりくみ}が推進^{すいしん}することで子ども^この読書活動^{どくしょかつどう}や環境^{かんきょう}の充実^{じゅうじつ}が図^{はか}られるようになります。

また、図書館^{としょかん}へ足を運^{あし}ばない方^{はこ}や、読書習慣^{かた}のない家庭^{どくしょしゅうかん}に向けて、子育て支援^{かてい}センターや学校^おなど、図書館^{こそだ}以外^{しえん}の場^ばで本^{ほん}に触^ふれる機会^{きかい}を作^{つく}るといった総合^{そうごう}図書館^{としょかん}のアウトリーチ活動^{かつどう}の推進^{すいしん}も望^{のぞ}まれます。

さらには、学校図書館^{がっこうとしょかん}を総合図書館^{そうごうとしょかん}の分室^{ぶんしつ}にしてはどうか、という発想^{はっそう}を転換^{てんかん}した意見^{いけん}も上がりました。

活動期間^{かつどうきかん}内の協議^{きょうぎ}で出^だされた様々^{さまざま}な意見^{いけん}は、現実^{げんじつ}的には実行^{じっごう}が難^{むずか}しいものもありますが、今後^{こんご}の総合図書館^{そうごうとしょかん}の事業計画^{じぎょうけいかく}に反映^{はんえい}されていくことを、期待^{きたい}するものであります。

そして私^{わたし}たち社会教育委員^{しゃかいきょういくいん}は、家庭^{かてい}・地域社会^{ちいきしゃかい}・学校^{がっこう}をつなぐコーディネーターとして、自覚^{じかく}をもって改^{あらた}めて取組^{とりくみ}を続^{つづ}けてまいります。

これ^こをもちまして、寒川町社会教育委員^{さむかわまちしゃかいきょういくいん} 図書館部会^{としょかんぶかい}からの発表^{はっぴょう}を終わ^おります。最後までお聞き^{さいご}くださり、ありがとう^きございました。(全体 6263 文字 / 約 21 分)